

出題のねらい

㊦は小川洋子の小説『博士の愛した数式』の最初の部分から出題しました。28歳で家政婦としてはキャリアを積んだ「私」はある日、扱いの難しそうな家を紹介されます。それは、現在64歳で、47歳の時に巻き込まれた交通事故により、新しい記憶が80分しか持続しないようになってしまった数学専門の元大学教授でした。「私」に博士について説明したのは、母屋に住む博士の兄の妻で、杖をつく彼女は、離れに住む博士のために昼食、掃除、買物、夕食の準備を依頼し、母屋とは関わらないようにと告げました。これらの登場人物の置かれている状況や心情を丁寧に読み解くことがねらいです。

㊧は文化人類学者、辻信一の『スロー・イズ・ビューティフル 遅さとしての文化』から出題しました。多くの伝統社会は大きさや速さや力の限度をわきまえており、そこには自然界と同様の均衡、調節、浄化の力が働いているかのようだった、ということを論じています。このように文化を「節度」という観点から述べていますので、こうした筆者の主張を丁寧に読みこむ問題を中心に出題しています。



【解答】(50点)

|    |   |        |      |      |        |
|----|---|--------|------|------|--------|
| 問一 | a 敬遠  | b 健全   | c 最早 | d 詮索 |        |
|    | e 沈黙  |        |      |      | (2点×5) |
| 問二 | A ウ   | B イ    | C ア  | D ア  | E イ    |
|    |   |        |      |      | (2点×5) |
| 問三 | ウ   |        |      |      | (3点)   |
| 問四 | エ   |        |      |      | (3点)   |
| 問五 | ウ   |        |      |      | (4点)   |
| 問六 | 不本意ながらも、博士をそこに住まわせているという感情。                                 |        |      |      | (6点)   |
| 問七 | 新しくやって来た家政婦と交流するために、何を話していいかわからなくて、言葉の代わりに数字を持ち出すという癖が出たから。 |        |      |      | (8点)   |
| 問八 | (X) 隠(「暗」も可)  | (Y) 数字 |      |      |        |
|    | (Z) 自分の居場所  |        |      |      | (2点×3) |

【解説】

問一 カタカナを漢字に直す問題です。入学試験に漢字の問題を出題するのは、漢字を正しく書く能力と、前後の文章から最も適当な漢字を考える思考力を問うためです。今回は、「敬遠」「健全」「沈黙」などはよく書けていましたが、「最早」は思いつかない受験生が多かったようです。「最寄り」の駅などの言い方を思い出せば正解を導けたことでしょう。

問二 助動詞の意味を問う問題です。「お目にかかる」は「会う」の謙譲表現ですが、「お目にかかれる」となると、この「れる」は可能の意味となります。「思い出される」の「れる」は自発ですね。受身の意味は見つけやすいのですが、こういった、可能や、感情語に付く自発の意味をしっかり把握したいです。

問三 内容説明問題です。雇い主からのクレームによる交替を示すブルーのインクの星印の判が、博士のカードには9つも押されていたことに注目します。すでに9名の家政婦が、交替させられていたのですから、「並みの家政婦では太刀打ちできない」難しい人物と考えられます。

問四 登場人物の心情を問う問題です。傍線部の前の記述は、「私と視線が合わないよう注意しながら」でした。視線を合わせるのを老婦人は何故警戒したのでしょうか。老婦人の「警戒心」がどこに根差したものかを把握することが大切です。二人の会話に給金の話は出ないので、「法外な給金」は不適當、先方から断ってきているので、「この家政婦にも辞めると言われる」も不適當、「思いのほか若い家政婦」は、ここまでの会話に家政婦の年齢の話は出ていないので不適當ですね。

問五 単語の示す内容を説明する問題です。「すっかり錆付き、鳥のフンがこびり付」いている錠前が示すものを読み解きます。嫌悪しているのに何度も義弟のために家政婦を雇うはずはないので、疎遠、もしくは不干渉な関係であることがわかります。「契約の元に」は言及されていませんから、不適當です。

問六 老婦人の心情を説明する記述問題です。「やむを得ず渋々」から「不本意ながら」という表現が使えたと説明がしやすかったです。記述問題は、ますます出題される傾向があります。問題集などを使用して、何をどのように説明すればわかりやすくなるかを工夫し、日々、手を動かすことが成功への道です。文末が設問の答えとして正しい形になっていな

## 公募制推薦入試／国語(前期)

かったり、誤字があると減点となりますから注意しましょう。

問七 博士の行動の理由を説明する記述問題です。「初対面」であること、「交流」が目的の行動であること、話題が見つからないこと、などをしっかりと説明します。また、言葉の代わりに数字を持ち出すという「癖」について説明が大切なポイントでした。60字程度の記述は、練習をしておかないと急には書けません。ポイントを見極めて、誰がどうしたという表現を中心に、わかりやすくまとめられるように練習しましょう。

問八 内容を説明した文章の空欄を埋める問題です。Xについては、比喩表現を「直喩」「隠喩」あるいは「暗喩」に分類するのは基本知識でした。最後の、「彼は取り敢えず自分の居場所を確保できた」を見つければ、Zの「自分の居場所」は答えやすかったですね。

実は出題範囲では触れられないのですが、この、博士と兄嫁の老婦人の関係は、小説の中ではほんやりとしか書かれていません。しかし、博士より8歳年上の老婦人が杖をついていたのは、55歳の時に巻き込まれた交通事故のせいで歩行が困難になったということが書かれています。博士と老婦人は同じ交通事故に巻き込まれた可能性は高いのですが、不倫関係とか、世俗のどろどろとした所を、数式を愛し、80分しか記憶が持続しない博士の言動が清浄にしているかのような、ほんわかとした内容になっています。気になった方は原作を読んでみてください。



【解答】(50点)

|    |   |      |       |      |        |
|----|---|------|-------|------|--------|
| 問一 | a 逃避  | b 緩急 | c 繁殖  | d 貨幣 |        |
|    | e 覚悟  |      |       |      | (2点×5) |
| 問二 | i オ   | ii ア | iii イ | iv ウ | (2点×4) |
| 問三 | 人間の真の必要物  |      |       |      | (3点)   |
| 問四 | 現実の姿  |      |       |      | (3点)   |
| 問五 | [最初] 土壌、[最後] いく。  |      |       |      | (3点)   |
| 問六 | 技術というものは、大きさ、早さ、力をみずから制御する原理を認めない(から。)                      |      |       |      | (4点)   |
| 問七 | イ   |      |       |      | (2点)   |
| 問八 | 「無限成長」の神話   |      |       |      | (3点)   |
| 問九 | 社会のつくり出したものが大きさ、早さ、力の限度を超えた時、それらを均衡、調節、浄化する節度を社会に組み込むメカニズム。 |      |       |      | (8点)   |
| 問十 | 「ウ」「オ」  |      |       |      | (3点×2) |

### 【解説】

問一 漢字の書き取り問題です。毎年のように述べていることですが、最も受験生の合否を左右すると言っても過言ではないのが漢字です。原則として基本的な熟語を出題していますので、普段の学びをぜひ大切にしてください。bの「緩急」を「間休」、cの「繁殖」を「繁植」、dの「貨幣」を「貨幣」「貨幣」と書く誤答がありました。

問二 接続詞を補充する問題です。全体によくできていましたが、特に目立ったのがiiiをエとする誤答です。エ「つまり」は前の内容を要約したり、別の表現で言い換えたりする時に使う接続詞です。空欄iiiの場合、前に「自ら均衡し、調節し、浄化する文化的なしくみ。そのメカニズムが破綻し始めて久しい。」、後に「無限に「より大きく、より早く、より強い」ことを求めつづける異様な社会が、まるで自然界を蝕むガン細胞のように繁殖している。」とありますが、この前後の文は同じ内容の言い換えでしょうか。浄化のメカニズムが破綻した結果、異様な社会が繁殖している、すなわち前後の文は、ある条件が生じた結果、ある別の状態になってしまっているという関係になっていますから、ここは順接の接続詞「そして」が入ります。

問三 「シューマッハーによれば、あるべき「技術」とはどのようなものか。」と問うているわけですから、本文中からシューマッハーの言葉を探します。すると「私は技術の発展に新しい方向を与え、技術を人間の真の必要物に立ち返らせることができると信じている。」とある箇所がありますので、ここから引用

すれば正解を導けます。「遅さとしての文化」という誤答がありました。この言葉はむしろ「技術」の対義語としてこの文章で用いられています。

問四 本文中で「抽象概念」と対比的に用いられている語句を問うたわけですが、「伝統社会」「無限成長」「現代社会」等の誤答がありました。そもそも「抽象」とは「具体」の対義語で、「多くのことから共通の属性を抜き出し、これを一般的な考え方としてとらえること」という意味です。つまり「抽象」は、ものごとの共通点に注目することを指しますが、その結果、一つ一つの具体的なことからあまり焦点をあてないわけですから「抽象」の対義語である「具体」と最も近い熟語を探することで正解を導きます。正解である「現実の姿」とは、「具体」そのものです。

問五 「人と自然との関わり」について最も具体的に述べた箇所を本文中から抜き出します。こうした問題では「人」「自然」「関わり」という語彙や、それを言い換えた表現に素直に注目してみてください。すると傍線部③の次の段落に「土壌、動植物、地形、気候。めぐり繰り返す季節。太陽、星、月の運行、潮の満ち干」という「自然」の様子を具体的に言い換えた表現が見出せますし、その直後にそれらと人間との関わりについて述べていますので、ここが正解だと判断できます。

問六 なぜ技術は自然界と対照的になるのかを尋ねていますので、ここも素直に、両者を対比的に述べている箇所を探します。この問題はよくできていました。

問七 「不文律」の意味を問いました。この言葉は「文字や文章で表現されていない法」を意味し、慣習法、判例法、暗黙のルールなどがこれに属します。誤答としてはウ「どんな場合でも動かさない規則」が目立ちましたが、不文律は文章化されていない法を指しますので、意味は異なります。

問八 「社会における文化的メカニズムの破綻」の原因となる考え方について問いました。なぜ伝統社会のもっていた文化が破綻したのか。伝統社会の対義語になっているのが現代社会であることはすぐにわかるとおもいますので、現代社会について本文中で述べている箇所を探します。すると「相変わらず「無限成長」の神話を生きているぼくたちの時代。」とありますので、「ぼくたちの時代」すなわち現代社会について述べているこの箇所が正解だとわかります。無限に成長する考え方に立つわけですから、

筆者が強調する文化の「節度」などは軽視されてしまいますよね。「小ささと遅さの喪失」という解答がありました。本文をよく読んでみてください。「実は社会における文化的メカニズムの破綻—ある適正な小ささと遅さの喪失のことだった、といえるだろう。」とありますから、「小ささと遅さの喪失」は「社会における文化的メカニズムの破綻」の言い換え表現になっています。つまりこの解答は、同じ内容を別の言葉で言い換えているのであり、「社会における文化的メカニズムの破綻」の原因ではありません。

問九 文化に関して筆者は「ここで重要なことは、多くの伝統社会がかつて、その大きさや速さや力の限度をわきまえていて、それはまるでそこに自然界と同様の均衡、調節、浄化の力が働いているかのようなこと。ぼくは思うのだが、本来、文化とは社会の中にそうした「節度」を組み込むメカニズムなのではないか」と定義していますので、ここを中心にまとめます。

問十 この文章で筆者が述べていることと合致する選択肢を選びます。正解のうち、ウは「文化を——そしてそれを育み、養ってきたスローネスを——ぼくらはこのまま見捨ててしまうのか。「より大きく、より早く、より強い」の経済、貨幣、資本、技術の論理の前に、「グローバリズムという怪物」の前に、やすやすと屈してしまうのか。」と対応します。一方、オは「「技術というものは、大きさ、早さ、力をみずから制御する原理を認めない」。だからそこには「均衡、調節、浄化の力が働かないのである。」、「シューマッハーの「技術」ということばを、「現代社会」とか、「経済」とかということばで置き換えてもそのまま通用しそうだ」と対応します。誤答の多くはイでした。確かに本文には伝統社会の特質について言及されていますが、「伝統社会に回帰せよ」と述べているわけではありません。どの設問もそうですが、丁寧に読むことで、本文の内容が正確に理解できているかを問うていますので、この選択肢を選んでしまった人は、もう一度ゆっくり本文を読み直してみてください。そもそも本文に「伝統社会を美化し、その一面だけをロマンチックに描こうとしている」、「過去へのノスタルジー」とあることから、この文章で伝統社会をやや理想化して書いていることを筆者自身が自覚しています。